

特集

農家手取り最大化の取り組みについて



ソーラーパネル揚水落差式灌水システム

農家手取り最大化の取り組みは、農業者のさらなる所得アップと持続可能な営農を確立することであり、今年度で4年目になります。その内容は、モデルJAおよびモデル経営体を設定し、そのJAの担い手の実情に応じた取り組みメニューを設定し、全農・JAが一体となって、農家の手取り最大化を進めることです。

福島県内では、JAふくしま未来およびJA会津よつばにモデルJAになっていただき、農家手取り最大化の目的の共有や体制の構築、役割分担の明確化を図り、JA役員も参加したプロジェクト会議を定期的に開催し、一定の成果をあげてきました。

昨年度の事例として、「露地キュウリ自動灌水システムの導入」と「農薬担い手直送の取り組み」をご紹介します。

初めに、「自動灌水システム導入の取り組み」は、近年の猛暑の常態化による高温・水不足の圃場環境の中で、JAふくしま未来管

内安達地区において、露地栽培きゅうりの実証圃場を設け、灌水労力の省力化と安定生産・収穫量アップを実施しました。実証圃場では、水源確保とソーラーパネル揚水落差方式灌水システムを導入し、農家メリットと収穫量の実績を確認しました。この結果、試験区と慣行区を比較したところ、農家メリットは、10aあたりの灌水労働時間が手灌水と比較して、1日あたり2時間短縮となりました。また、収穫量は、慣行栽培と比較し定植後の初期生育が良好で、樹勢維持が図られ収穫量も102〜104%となりました。

次に、「農薬担い手直送の取り組み」は、県内全域の取り組みとして、担い手生産者の手取りを増やすべく、各JAが目標を掲げ、JAの担い手担当者・経済担当者および全農福島県本部の担い手担当者・肥料農薬推進担当者が、部門間連携を行いながら、大型の担い手直送規格の推進をしたことです。実践具体策は、(1) 目標値の設定 (2) 連携体制の構

築(3) 対象農家のリストアップ(4) メーカーと協議した品目の選定(5) 専用注文書の作成および周知などであり、その結果、2019年度の実績は、県内で440件(前年対比389%)、5,436ha(前年対比331%)の実績となりました。

今年度は、令和元年度からの3か年計画の初年度として、昨年度までの取り組みを更に拡大するため、実践事項を「全JAへの水平展開」と「経営体の所得増大支援」を2つの柱にします。

「全JAへの水平展開」は、昨年度まで取り組んだ農家手取り最大化実践の成果から、全JAが地域に即したメニューを選定し、組合員手取り最大化を目的に水平展開を図ることです。

「経営体の所得増大支援」は、モデル経営体を選定し、経営体・JA・全農が一体となり、所得増大に向けた課題の共有とメニュー提案による実証および検証を踏まえて所得増大及び経営改善を支援することです。

また、実践具体策は、①トータル生産コストの低減、②大規模営農モデル実証による担

い手経営改善、③人材育成の三つの課題を解決する実践メニューです。

①トータル生産コストの低減の実践は、両JAの実態に合わせた実践メニューとして、物材費・労働費・生産性向上につながる内容を設定し、それぞれに数値目標を明確にして進めることです。

②大規模経営モデル実証による担い手の経営改善は、モデル経営体として昨年度に引き続きJA会津よつば管内の各地区本部から経営体を選定し、その経営体に関連する実践メニューの実証と経営実態調査に協力いただき、取り組みを進めることです。

③人材育成の諸課題は、営農指導員研修や担い手支援担当者研修会の充実およびJGAP指導員研修等多くの体系的な人材育成プログラムの受講を実施することです。

これらを確認し、定期的な進捗状況を確認しながら、農家手取り最大化の実践に向け、JAおよびモデル経営体と連携して事業の実証をしていきます。

以上



大型農薬規格直送「バッチリL X 40kg」